

景況実感調査(2021年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 前月より稼働日数は増えたが、売上は伸びず。材料が無い機会損失も増えている。価格は上げているが、ユーザーの温度はまだらのまま。
- ② 22日稼働日となり対前月4日プラス分程度の売上増となった。メーカー値上げに市況は追いつけず、玉不足とあってスポット売りは仕入れに見合った価格での販売ができてはいるが、売り手も買い手も不満の残る商売だ。オリンピックも今月中に始まり、期間中は経済活動もコロナ感染予防を踏まえて少なからず停滞せざるを得ず、8月中はこんな状態が続くと思われる。
- ③ メーカーからの値上げ単価修正が来ていない部分があり、見かけ上利益が上がっているように見えるが、後々減収となって出て来るので、製品値上げのピッチを何とか早めなければならない。高炉のロール枠が厳しくなっており、7~9月も大幅カット。下期はさらに厳しくなるのでは、と言われており値上げとのダブルパンチ。
- ④ 6月は前月比微増となったものの、コロナ前の9割水準である。中国市況の頭打ち感が出てきたものの、鋼材需給が緩む心配がないことにより、日本国内市況もアジア価格に近づくべく、しばらくは上昇基調が続くそう。
- ⑤ 高炉メーカーの契約カットと仕入れ値の上昇は継続している。まだまだ道半ばと思われる。在庫が無く、選別受注をせざるを得ない。高炉メーカーは生産キャパを増す気がないので、しばらくはこの状況が続くと思って仕事をする。
- ⑥ ユーザーの客先への価格転嫁が進まず、与信不安がつのる。7月以降、自動車(トヨタ)の挽回生産と下期の増産計画が予定通り進めば、また店売り材の入荷が滞りタイト感が再燃するだろう。今年度は価格も生産も高位安定するだろう。もう一点、値上げ記事が日経において強調されていないと思うのは私だけか。

中板

- ① 5月に落ち込んでいた受託加工は、6月に3月並みの高水準で推移したものの、7月に入ってペースダウンしており、オリンピック開催の見通しもあって、6月に前倒しされたものと思われる。度重なるメーカー値上げもあり、市況は厚板まで含めて強基調であるものの、急激な上昇に引合いは様子見的な面も見られ、一時の活況は感じられない。長く鉄鋼業界に身を置く営業マンは、いつ需給変動が起きて市況の軟化が現れるのか、過去の経験からその議論に移っている印象もある。20年、30年掛かるであろう鉄鋼流通の仕組みや価格構造の変化などが、コロナ禍を契機に一瞬にして顕在化する可能性も考えなければいけないのではないかと。
- ② 薄板三品、中板ともに引き続き価格の上伸場面が続くと見られる。無規材の引合いはSS400に比べて多く、在庫が溜まらない状況。東京製鉄が7月契約で厚板価格を5千円引き上げるなど、厚板に関しても市中需給タイト化が鮮明になりつつある。これまでの急激な値上げに対する上げ疲れもあるのか、東鉄の発表以降、荷動きは今一つの状況だが、一時的と思われる。

厚板

- ① <全体感>鉄鋼メーカーの引き受け制限及び納期長期化が一層顕著になっている。また、自動車、建機に加え造船や一部大型建築も回復傾向にあり、供給タイト感は日々強まっている。これにより市中在庫への引合いが増えるが、店売り在庫量も低位で、材料の確保に苦慮する先が散見される。<分野別>建機は外需に牽引される格好で引き続き好調。鉄鋼メーカーが供給タイトな中で、各社とも材料確保に苦慮している。産機も中国が牽引する形で出荷が増加しており、下期に向けて回復がより鮮明になる見込み。店売りは、切板の引合いが低調で、街場は盛り上がり欠ける状況が続くが、材料市況が続伸しており切板価格値上げは待ったなしの状況。
- ② 建設機械は引き続き好調。店売り関連は一部の鋼種、板厚に関しては歯抜けも出てきた。

舟型鋼

- ① 6月までの低迷するこの1年間で5月は最低、6月は最高の地獄と天国の売上を経験したが、原因は一部顧客からの受注増によるものなので手放しでは喜べないが、変化への前兆と捉えたい。五輪期間の7月、8月の業績低迷は覚悟済みだが、需要回復の芽は真摯に探りたい。既に供給側は十分に回復しているのだから。
- ② 来年着工予定の案件も、鋼材の高騰によりかなり厳しい条件を出される。中間の物流が厳しくなる。景気がまだ下向きなので鋼材の価格を上げられない。

I型鋼

- ① 6月の倉出しは微増。前年同月比では減少。日当たりは減少し、4~6月出荷は低レベル。オリンピックが開催され、中旬以降の商いは減少する。需要期に向けて、再販価格を切り上げていく。
- ② 6月の扱い数量については、5月比増も価格重視の販売方針から日当たりでは減少。7月、8月はオリパラ、お盆休みと需要面は不透明だが、9月以降は需要期に入ること、また今後は建材製品においてもメーカーの供給がタイトになることが予想され、来るべき時に向け価格重視の販売に徹することが肝要と思われる。

異形棒鋼

- ① メーカーが9万円を唱える中、浦安の店売りも9万円台となった。動きも6月はまあまあ。7月前半もオリンピック、盆前で少し良い。
- ② 日々の商売は少ないが、小口土木物件や建築向け契約残の出荷などで売上は回復した。メーカーの値上げ攻勢で販価を改定しているが、利益率は低下している。
- ③ 今後も荷動きの悪い状況が続くと予想している。

平鋼

- ① 値上げによる仮需の発生と板の代替品とした広幅の注文が重なり、久々にプラスに転じた。一部には歯抜けも出てきており品薄気味。製造業向けは緩やかに回復している。しかし、建築向けの動きは悪く、板の代替も限定的。秋以降の建築需要に期待している。当面、スクラップ高の状況が続くと思われ、引き続き価格転嫁を進めていく。
- ② 今年に入り平鋼メーカーの値上げが1月、6月積みで各10円/kg、7月積みで3~5円/kgとトータル23~25円/kgの値上げになっている。8月のお盆休み明けまでには値上げを実行していきたい。また、高炉メーカーの厚板が今後入りにくくなってくる影響か、今まで切板でやっていたと思われる加工の引合いが増えている。

車量鋼

- ① 製品価格への転嫁ができていない。
- ② 品物の入荷が悪く、タイトな状況が一段と進んだ状況だ。
- ③ 引き続き出荷にバラツキがあり、稼働状況が例年と大きく違う。当分続く様子。

鋼管

- ① 溶協品は6月に入って段階的な値上げを実施したが、更なるメーカーの急激な追加値上げに我々も客先も困惑している。在庫も急速にタイト化している。
- ② 実需の回復が現実となり有難い反面、メーカーの強気の値上げが益々通りやすい環境となる。夏以降と読んだ市況の過去最高値更新が6月で現実となる。ここで留まる気配もなし。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車や建機、工作機械向けなど、おおむね堅調。紐付き需要は底堅いが、店売りについては一部で仮需的な引合いがあるも横這い状況。在庫については、メーカーの納期遅れも一部で出ておりタイト化も見られる。メーカー各社は原料などのコスト高から追加値上げを表明しており、市況はもう一段階の値上げに向かう様相を帯びてきた。

磨棒鋼

- ① 紐付き品は建機、産機向けは好調を維持している。自動車向けは半導体不足による調整を懸念していたが、大幅な減少には至っていない。一方、店売りは値上げ前後の需要増や反動減もなく、若干低位のまま推移している。製鋼メーカーより5~10円/kgの第2弾の値上げ要請が来ている。春先の値上げが一段落したばかりのため、もう少し様子見したい。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 相変わらずのスクラップ不足。産業が低迷しているためスクラップ発生不足で、需要に対して供給が追いついていけない状況。

<金属表面処理>

- ① 6月は前月に比べスポットの扱い量が増加。紐付き材、物件物も計画通りであったため、扱い量としては15%増加。付加価値の高い加工が多く、売上、販売単価とも上昇。各種原料高騰により塗料、シンナー等の購入品が大幅値上げとなり、加工賃への転嫁を7月より実施する。